

プロローグ 失敗に学ぶ

失敗は成功の母

11

陰の世界の情報伝達

13

なぜ致命的な失敗が続くのか

16

失敗のプラス面に目を向けよう

18

第一章 失敗とは何か

「人間が関わっている」「望ましくない結果」、それが失敗

25

「失敗学」が生まれた理由

28

なぜ失敗に学ぶ必要があるのか

29

社会を発展させた三重大事故

33

青函トンネルに生かされている失敗の英知

40

「失敗学」に基づく東大機械科の学習法

46

サポートはたいへんでも失敗学習は意義がある

48

第二章 失敗の種類と特徴

失敗には階層性がある	59
よい失敗、悪い失敗	65
失敗原因を分類する	70
大失敗を誘発する樹木構造	76
途中変更が諸悪の根源	80
樹木構造の弱点を補うには	83
失敗は成長する	86
失敗は予測できる	89

第三章 失敗情報の伝わり方・伝え方

- 失敗情報は伝わりにくく、時間が経つと減衰する 93
- 失敗情報は隠れたがる 97
- 失敗情報は単純化したがる 101
- 失敗原因は変わったがる 103
- 失敗は神話化しやすい 105
- 失敗情報はローカル化しやすい 107
- 客観的失敗情報は役に立たない 110
- 失敗は知識化しなければ伝わらない 115
- 六項目による記述 118
- 当事者が記述できないときはどうするか 131
- 決して批判をするな 134

第四章 全体を理解する

解を求める学習で得た知識と体感学習で得た知識は違う

日立での貴重な二年間 140

空母大鳳はなぜ爆発したか 142

まずは行動してみよう 147

仮想失敗体験 149

全体を理解することの大切さ 152

「偽ベテラン」と「本当のベテラン」の違い

155

真の理解への理想的プロセス 159

第五章 失敗こそが創造を生む

論理的思考のウソ 163

思考平面上にアイデアの種が落ちてくる 165

大切なのは「仮想演習」をすること 169

アイデアの種は大胆に切り捨てる 173

口に出さない常識がある 175

思いつきノートをつけよう 179

表プランと裏プラン 186

考えの全体構成を見よう 189

どんな創造も仮想演習から生まれる 195

第六章 失敗を立体的にとらえる

「潜在失敗」を含み損としてとらえる——経済と失敗 201

「訓練失敗」を組み入れる——人の心理と失敗 208

懲罰的賠償制度と司法取引——法律と失敗 216

第七章 致命的な失敗をなくす

- 技術の成熟と利益追求 225
すべての組織が陥る病 231
「まさかこんなことが起こるとは思わなかった」のウソ
局所最適と全体最悪 240
「いまあるものを絶対に変えない、いじらない」 244
TQCの落とし穴 247
ISOも危ないぞ 252
ダメ上司には気をつけろ 253
ムダな会議が多すぎる 256
リーダーにより失敗は三倍違う 257

第八章 失敗を生かすシステムづくり

二万個の失敗情報を集めても意味はない 265

必要な失敗情報は最大三百個 267

知識と経験を与える場づくり 271

失敗を生かすと得になる仕組み 275

失敗博物館 276

エピソード 失敗を肯定しよう

日本企業の抱える病根 279

マネ文化の限界 281

そして失敗は続く 285

あとがき

文庫版あとがき

293 288

